

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20H00557

研究課題名(和文)0次予防に向けた建造環境から健康に至るメカニズムの解明

研究課題名(英文)Elucidation of mechanism from built environment to health toward primordial prevention

研究代表者

近藤 克則 (Kondo, Katsunori)

千葉大学・予防医学センター・教授

研究者番号：20298558

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,500,000円

研究成果の概要(和文)：「暮らしているだけで健康になる」環境重視の「ゼロ次予防」に向けて、人工の建造環境と健康・Well-beingとの関連とメカニズムの理論的実証的な解明を目的とした。そのために、文献に基づく建造環境からWBに至る理論仮説モデルを作成、約70市町村の延べ75万人の高齢者大規模縦断データを活用した建造環境とWBとの関連の検証、建造環境からWBに至るメカニズムの解明、2022年度に追跡調査を行い、建造環境の変化によるWB関連要因の変化を多面的な評価を実施した。その結果、日本の最上位の健康施策である「健康日本21(第三次)」にもりこまれた「自然に健康になる環境」の科学的根拠を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

建造環境とそこに暮らす個人のWell-beingの関連を実証することに加え、建造環境がwell-beingに影響をもたらすメカニズムを明示することは、健康日本21(第三次)に「自然に健康になる環境」を盛り込むことに貢献できた。

2024年度から新たに始まる健康日本21(第三次)においても、ソーシャル・キャピタル醸成が求められるが、その基盤として、建造環境を整備することの重要性と科学的根拠を提供できた。

研究成果の概要(英文)：Toward environment-oriented "Primordial prevention," in which people become healthy simply by living in their community, we aimed to theoretically and empirically elucidate the relationship and mechanisms between the artificial built environment and health and well-being(WB).

We have (1) developed a theoretical hypothetical model from the built environment to WB based on literature, (2) verified the relationship between the built environment and WB using large-scale longitudinal data of a total of 750,000 older people in about 70 municipalities, (3) clarified the mechanism from the built environment to WB, and (4) conducted a follow-up survey in FY2022 to investigate the relationship between WB and the built environment and the change in WB-related factors due to changes in the built environment. As a result, we presented the scientific basis for the "naturally healthy environment" included in Japan's top-level health policy, "Healthy Japan 21 (Tertiary)".

研究分野：社会疫学

キーワード：建造環境 Well-being(幸福・健康) ゼロ次予防 ソーシャル・キャピタル

1. 研究開始当初の背景

「原因の原因」へのアプローチを重視する「ゼロ次予防」の概念が注目されており、「暮らしているだけで健康になるまちづくり」に向けた科学的根拠が求められている。本研究の中核をなす JAGES (Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究) は、約 70 市町村の延べ 75 万人の高齢者大規模縦断研究であり、まちの歩きやすさや人が集う場所の配置など人工の建造環境と Well-being (WB) に関する多くの変数を含み、個票データを用いた縦断的な分析ができるという強みと政策に寄与した実績をもつ。本研究では、建造環境と WB の関連やそのメカニズムを解明し、「暮らしているだけで健康になるまちづくり」に向けた新たな知見を引き出したいと考えていた。

2. 研究の目的

「暮らしているだけで健康になる」環境重視の「ゼロ次予防」の社会実装に向けて、建造環境と WB との関連とそのメカニズムの理論的実証的な解明を目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、まず、文献に基づき建造環境から WB に至る理論仮説モデルを作成した。次に、既存の約 70 市町村の延べ 75 万人の高齢者大規模縦断データを活用し、建造環境と WB との関連の検証、心理的評価など主観データと社会関係、活動量などの客観データを併用し、建造環境から WB に至るメカニズムの検証を行った。最後に、2022 年度に追跡調査を行い、建造環境の変化による WB 関連要因の変化を多面的に評価した。

4. 研究成果

研究期間中に、学术论文 33 件 (査読付 31 件) 学会発表 41 件を実施した。まず、の文献に基づく建造環境から WB に至る理論仮説 (図 1) を整備した。整備した理論仮説は、後に示す ~ の検証をふまえ、建造環境は、地域全体のソーシャル・キャピタルを醸成し、個人の行動変容することで、WB に至るという形でまとめた (井手、近藤ら, 2023)。

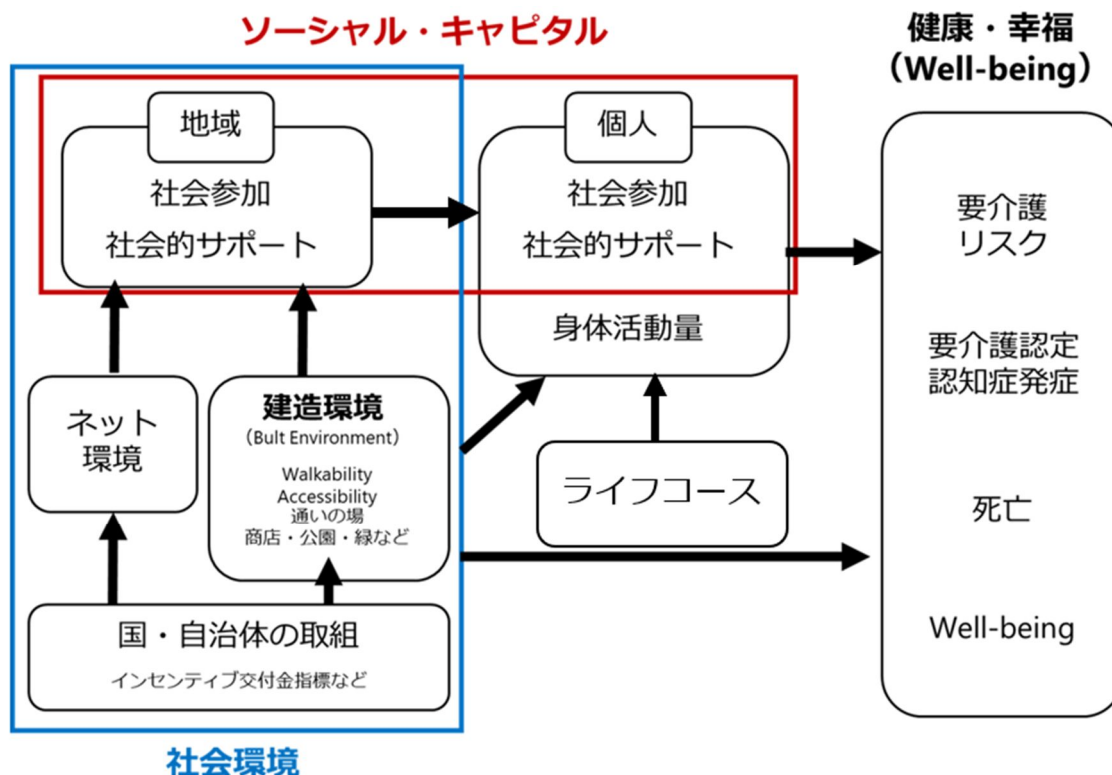


図 1: 建造環境から WB に至る理論仮説

~ の分析に使用するデータに関しては、分析に向けた既存データ (2019 年エンドポイント) の整備と建造環境と WB 項目を含む調査票を用いた 2022 年度の大規模調査 (75 市町村約 35 万人) を実施した。その上で、2022 年度エンドポイントとしたデータを整備し、分析に活用した。~ の分析のうち、主要なもの (Mori Y, 2022; Chen Y, 2022; Mori Y, 2023) を中心に以下にまとめる。

Mori 論文 (2022) では、2013・2016 年の 2 時点の JAGES 調査を用い、2013 年時点でフレイル

状態でない高齢者(38,289人)を対象とし、地域環境とフレイル発症の関連について分析した。3年間の追跡でフレイル発症を2,740人(7.1%)認めた。徒歩圏の地域環境では、8種類全ての地域環境(落書きやごみ放置、交通事故、夜の一人歩きが危険、坂や段差、公園や歩道、魅力的な景色、生鮮食料品、気軽に立ち寄れる施設)が良好だとフレイル発症リスクが低くなっていた。

Chen論文(2022)では、2013・2016年の2時点のJAGES調査を用い、2013年時点でうつ状態でない高齢者(24,141人)を対象とし、居住地周辺(半径800m以内)の交差点密度と道路の接続性とうつ発症の関連について分析した。交差点密度は1km<sup>2</sup>あたりの交差点数(3つ以上の道路が交差する点)とし、道路の接続性は、グラフ理論を用いて数学的に計算するスペースシンタックス理論により計算した。3年間の追跡でうつ発症を2,292人(7.5%)に認めた。分析の結果、3年後にうつを発症するオッズ比(95%信頼区間)は、交差点密度、道路接続性が低い地域に住む高齢者に比べ、高い地域に住む高齢者でそれぞれ0.83(0.72-0.96)、0.86(0.75-0.97)となっていた。

Mori論文(2022)では、2013・2016年の2時点のJAGES調査を用い、2013年時点でフレイル状態でない高齢者(38,289人)を対象とし、地域環境とフレイル発症の関連と歩行時間、抑うつ症状、近隣・友人からの社会的サポートが媒介要因となるかを検証した。3年間の追跡でフレイル発症を2,232人(6.7%)に認めた。各建造環境とフレイルを媒介する要因として、公園や歩道(歩行時間:5.9%、抑うつ症状:22.9%、社会的サポート:5.9%)、生鮮食料品店(抑うつ症状:31.9%、社会的サポート:4.0%)、坂や段差(抑うつ症状:20.6%)、気軽に立ち寄れる家や施設(歩行時間:4.0%、抑うつ症状:28.0%、社会的サポート:10.4%)、魅力的な景色や建物(歩行時間:7.8%、抑うつ症状:42.1%、社会的サポート:12.0%)であった。

上記の論文を含む本研究の知見により、建造環境とそこに暮らす個人のWell-beingの関連を実証し、建造環境がwell-beingに影響をもたらすメカニズムを明示でき、健康日本21(第三次)に「自然に健康になる環境」を盛り込むことに貢献した。2024年度から新たに始まる健康日本21(第三次)においても、ソーシャル・キャピタル醸成が求められるが、その基盤として、建造環境を整備することの重要性と科学的根拠を提供できた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計33件（うち査読付論文 31件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 30件）

1. 著者名 Tsuji Taishi, Kanamori Satoru, Yamakita Mitsuya, Sato Ayane, Yokoyama Meiko, Miyaguni Yasuhiro, Kondo Katsunori	4. 巻 12
2. 論文標題 Correlates of engaging in sports and exercise volunteering among older adults in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 3791
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1038/s41598-022-07688-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Fuji Yoshihiro, Sakaniwa Ryoto, Shirai Kokoro, Saito Tami, Ukawa Shigekazu, Iso Hiroyasu, Kondo Katsunori	4. 巻 26
2. 論文標題 The number of leisure-time activities and risk of functional disability among Japanese older population: the JAGES cohort	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101741 ~ 101741
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pmedr.2022.101741	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Haseda Maho, Takagi Daisuke, Stickley Andrew, Kondo Katsunori, Kondo Naoki	4. 巻 74
2. 論文標題 Effectiveness of a community organizing intervention on mortality and its equity among older residents in Japan: A JAGES quasi-experimental study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Health & Place	6. 最初と最後の頁 102764 ~ 102764
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.healthplace.2022.102764	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Ikeda Takaaki, Cooray Upul, Hariyama Masanori, Aida Jun, Kondo Katsunori, Murakami Masayasu, Osaka Ken	4. 巻 37
2. 論文標題 An Interpretable Machine Learning Approach to Predict Fall Risk Among Community-Dwelling Older Adults: a Three-Year Longitudinal Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of General Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 2727 ~ 2735
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11606-022-07394-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Tamada Yudai, Yamaguchi Chikae, Saito Masashige, Ohira Tetsuya, Shirai Kokoro, Kondo Katsunori, Takeuchi Kenji	4. 巻 155
2. 論文標題 Does laughing with others lower the risk of functional disability among older Japanese adults? The JAGES prospective cohort study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 106945 ~ 106945
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jpmed.2021.106945	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shiba Koichiro, Torres Jacqueline M., Daoud Adel, Inoue Kosuke, Kanamori Satoru, Tsuji Taishi, Kamada Masamitsu, Kondo Katsunori, Kawachi Ichiro	4. 巻 32
2. 論文標題 Estimating the Impact of Sustained Social Participation on Depressive Symptoms in Older Adults	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Epidemiology	6. 最初と最後の頁 886 ~ 895
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/EDE.0000000000001395	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanamori Mariko, Hanazato Masamichi, Takagi Daisuke, Kondo Katsunori, Ojima Toshiyuki, Amemiya Airi, Kondo Naoki	4. 巻 20
2. 論文標題 Differences in depressive symptoms by rurality in Japan: a cross-sectional multilevel study using different aggregation units of municipalities and neighborhoods (JAGES)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Health Geographics	6. 最初と最後の頁 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12942-021-00296-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tani Yukako, Fujiwara Takeo, Kondo Katsunori	4. 巻 61
2. 論文標題 Adverse Childhood Experiences and Dementia: Interactions With Social Capital in the Japan Gerontological Evaluation Study Cohort	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Journal of Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 225 ~ 234
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.amepre.2021.01.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji Taishi, Kanamori Satoru, Watanabe Ryota, Yokoyama Meiko, Miyaguni Yasuhiro, Saito Masashige, Kondo Katsunori	4. 巻 11
2. 論文標題 Watching sports and depressive symptoms among older adults: a cross-sectional study from the JAGES 2019 survey	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 10612
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-89994-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東馬場要, 井手一茂, 渡邊良太, 飯塚玄明, 近藤克則.	4. 巻 49(9)
2. 論文標題 高齢者の社会参加の種類・数と要介護認定発生の関連 - JAGES2013 2016 縦断研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション.	6. 最初と最後の頁 897-904
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田近敦子, 井手一茂, 飯塚玄明, 辻大士, 横山芽衣子, 尾島俊之, 近藤克則.	4. 巻 69(2)
2. 論文標題 「通いの場」への参加は要支援・要介護リスクの悪化を抑制するか: JAGES2013-2016縦断研究.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 136-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 辻大士, 高木大資, 近藤尚己, 丸山佳子, 井手一茂, LINGLING, 王鶴群, 近藤克則.	4. 巻 69(5)
2. 論文標題 通いの場づくりによる介護予防は地域間の健康格差を是正するか?: 8年間のエコロジカル研究.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 383-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.21-120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagomi A, Shiba K, Kondo K, Kawachi I	4. 巻 25(10)
2. 論文標題 Can social capital moderate the impact of widowhood on depressive symptoms? A fixed-effects longitudinal analysis.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Aging Ment Health	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13607863.2020.1793296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Igarashi A, Aida J, Yamamoto T, Hiratsuka Y, Kondo K, Osaka K	4. 巻 75(2)
2. 論文標題 Associations between vision, hearing and tooth loss and social interactions: the JAGES cross-sectional study.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Epidemiol Community Health 2020	6. 最初と最後の頁 171-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1136/jech-2020-214545	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsuji T, Kanamori S, Miyaguni Y, Kondo K	4. 巻 18(2)
2. 論文標題 Community-Level Sports Group Participation and Health Behaviors Among Older Non-Participants in a Sports Group: A Multilevel Cross-Sectional Study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health 2021	6. 最初と最後の頁 531
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18020531	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nishigaki M, Hanazato M, Koga C, Kondo K	4. 巻 17(24)
2. 論文標題 What Types of Greenspaces Are Associated with Depression in Urban and Rural Older Adults? A Multilevel Cross-Sectional Study from JAGES	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health 2020	6. 最初と最後の頁 9276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17249276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura M, Ojima T, Ide K, Kondo K	4. 巻 32(8)
2. 論文標題 Allaying Post-COVID 19 Negative Health Impacts Among Older People: The "Need To Do Something With Others"-Lessons From the Japan Gerontological Evaluation Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Asia-Pacific journal of public health 2020	6. 最初と最後の頁 479-484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/1010539520951396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村美也子, 尾島俊之, 近藤克則	4. 巻 41
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行下での高齢者の生活への示唆 : JAGES 研究の知見から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本健康開発雑誌 2020	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32279/jjhr.20200602	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 阿部紀之, 井手一茂, 渡邊良太, 辻大土, 斉藤雅茂, 近藤克則	4. 巻 58(1)
2. 論文標題 社会的フレイルの指標に関する文献レビューと内容的妥当性の検証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本老年医学会雑誌 2021	6. 最初と最後の頁 24-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3143/geriatrics.58.24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高杉友, 近藤克則	4. 巻 42(3)
2. 論文標題 日本の高齢者における生物・心理・社会的な認知症関連リスク要因に関するシステムティックレビュー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 老年社会科学 2020	6. 最初と最後の頁 173-187
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34393/rousha.42.3_173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 飯塚玄明, 岡部大地, 近藤克則	4. 巻 7(6)
2. 論文標題 まちづくり ~フレイル予防のエビデンスから実践まで~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Gノート 羊土社 2020	6. 最初と最後の頁 128-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori Yuta, Tsuji Taishi, Watanabe Ryota, Hanazato Masamichi, Miyazawa Takuto, Kondo Katsunori	4. 巻 103
2. 論文標題 Built environments and frailty in older adults: A three-year longitudinal JAGES study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104773 ~ 104773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2022.104773	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kimura Miyako, Ide Kazushige, Sato Koryu, Bang Eunji, Ojima Toshiyuki, Kondo Katsunori	4. 巻 27
2. 論文標題 The relationships between social participation before the COVID-19 pandemic and preventive and health-promoting behaviors during the pandemic: the JAGES 2019?2020 longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Environmental Health and Preventive Medicine	6. 最初と最後の頁 45 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1265/ehpm.22-00154	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chen Yu-Ru, Hanazato Masamichi, Koga Chie, Ide Kazushige, Kondo Katsunori	4. 巻 12
2. 論文標題 The association between street connectivity and depression among older Japanese adults: the JAGES longitudinal study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 13533
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-022-17650-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Abe Noriyuki, Ide Kazushige, Watanabe Ryota, Hayashi Takahiro, Iizuka Genmei, Kondo Katsunori	4. 巻 71
2. 論文標題 Social participation and incident disability and mortality among frail older adults: A JAGES longitudinal study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the American Geriatrics Society	6. 最初と最後の頁 1881 ~ 1890
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jgs.18269	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ide Kazushige, Tsuji Taishi, Kanamori Satoru, Watanabe Ryota, Iizuka Gemmei, Kondo Katsunori	4. 巻 112
2. 論文標題 Frequency of social participation by types and functional decline: A six-year longitudinal study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 105018 ~ 105018
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2023.105018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iizuka Gemmei, Tsuji Taishi, Ide Kazushige, Watanabe Ryota, Kondo Katsunori	4. 巻 22
2. 論文標題 Does social participation foster social support among the older population in Japan? A three-year follow-up study from the Japan gerontological evaluation study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SSM - Population Health	6. 最初と最後の頁 101410 ~ 101410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ssmph.2023.101410	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori Yuta, Tsuji Taishi, Watanabe Ryota, Hanazato Masamichi, Chen Yu-Ru, Kondo Katsunori	4. 巻 24
2. 論文標題 Built Environments and Frailty in Older Adults: The JAGES Longitudinal Study Using Mediation Analysis	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of the American Medical Directors Association	6. 最初と最後の頁 1677 ~ 1682
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jamda.2023.06.023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakagomi A, Tsuji T, Saito M, Ide K, Kondo K, Shiba K.	4. 巻 327
2. 論文標題 Social isolation and subsequent health and well-being in older adults: A longitudinal outcomewide analysis.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Soc Sci Med	6. 最初と最後の頁 115937
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2023.115937.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimizu Nao, Ide Kazushige, Kondo Katsunori	4. 巻 23
2. 論文標題 Association between diversity levels of member composition in group activities of older adults and the occurrence of need for care: the JAGES 2013?2019 longitudinal study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Geriatrics	6. 最初と最後の頁 579
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12877-023-04261-x	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Wang Hequn, Tsuji Taishi, Ide Kazushige, Nakagomi Atsushi, Ling Ling, Kondo Katsunori	4. 巻 38
2. 論文標題 Does eating with others promote happiness among older adults living alone? A 3 year longitudinal study of the Japan gerontological evaluation study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Journal of Geriatric Psychiatry	6. 最初と最後の頁 e6063
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/gps.6033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 竹内 寛貴, 井手 一茂, 林 尊弘, 阿部 紀之, 中込 敦士, 近藤 克則	4. 巻 70
2. 論文標題 高齢者の社会参加とフレイルとの関連 : JAGES2016-2019縦断研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本公衆衛生雑誌	6. 最初と最後の頁 529-543
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11236/jph.22-088	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井手一茂, 近藤克則	4. 巻 51
2. 論文標題 環境要因と健康格差	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 総合リハビリテーション	6. 最初と最後の頁 603-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1552202845	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 小林周平, Chen Yu-ru, 井手一茂, 花里真道, 辻大士, 近藤克則
2. 発表標題 生鮮食料品店が近くにできた高齢者の歩行時間は増えるのか: JAGES2016-2019縦断研究
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 森優太, 辻大士, 渡邊良太, 花里真道, 宮澤拓人, 近藤克則
2. 発表標題 個人・地域レベルの建造環境とフレイル発症の関連: 3年間の JAGES 縦断研究
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡角英, 吉田紘明, 井手一茂, 平井寛, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 公共交通) 敬老パスを利用する高齢者は、閉じこもりが少ないか: JAGES (日本老年学的評価研究) 3年縦断研究.
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 陳昱儒, 井手一茂, 花里真道, 古賀千絵, 吉田紘明, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における主観的な近隣環境と要支援・要介護認定の関連：JAGES2010-2019コホート研究.
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 LINGLING, 井手一茂, 辻大士, 花里真道, 王鶴群, 陳昱儒, 吉田紘明, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の図書館または本屋書店の利用頻度と認知症リスク
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井手一茂, 辻大士, 金森悟, 渡邊良太, 飯塚玄明, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の地域組織参加の種類別頻度と認知症発症の関連：JAGES2010-2016縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 東馬場要, 井手一茂, 渡邊良太, 飯塚玄明, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の地域組織参加の数・種類と要介護認定の関連：JAGES2013-2016縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯塚玄明, 辻大士, 井手一茂, 渡邊良太, 横山芽衣子, 近藤克則
2. 発表標題 通いの場(サロン)への参加はサロン以外の社会参加を促進するか: JAGES縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 塩谷竜之介, 井手一茂, 阿部紀之, 近藤克則
2. 発表標題 都市型介護予防モデルでは1年後のIADL 低下が少ない: JAGES松戸プロジェクト縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高杉友, 辻大士, 花里真道, 宮國康弘, 近藤克則
2. 発表標題 地域レベルの教育年数と認知症リスクの関連: JAGES6年間の縦断コホート研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮國康弘, 斉藤雅茂, 辻大士, 近藤尚己, 近藤克則
2. 発表標題 地域レベルの社会参加と介護給付費との関連: JAGES縦断データによるマルチレベル分析
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西垣美穂, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者のうつと地域の水辺の関連 : JAGES2016横断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 金森万里子, 花里真道, 高木大資, 近藤克則, 尾島俊之, 近藤尚己
2. 発表標題 都市 / 農村の抑うつの格差 : 市町村・小学校区の地区単位別の検討JAGES
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳ユル, 花里真道, 古賀千絵, 井手一茂, 近藤克則
2. 発表標題 街路の接続性と高齢者うつとの関連 : JAGES2013-2016縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤原聡子, 宮國康弘, 辻大士, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の社会的ネットワークと認知症リスクとの関連 : JAGES6年間縦断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西田恵, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者のうつと居住地域の子ども人口密度の関連: JAGES2016横断研究
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木内桜, 相田潤, 山本貴文, 草間太郎, 梅原典子, 近藤克則, 小坂健
2. 発表標題 口腔と認知症発症の関連のメカニズム: 媒介分析による検討
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤原聡子, 辻大士, 中込敦士, 宮國康弘, 花里真道, 武藤剛, 近藤克則
2. 発表標題 地域レベルのソーシャルキャピタルと認知症リスクとの関連: JAGES 9年間縦断研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松岡洋子, 花里真道, 西垣美穂, Chen Yu-Ru, 古賀千絵, 平石智美, 吉田紘明, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における住まいの満足度・居住期間とうつリスクとの関連
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 Chen Yu-Ru, 花里真道, 斉藤雅茂, 古賀千絵, 吉田紘明, 中込敦士, 西垣美穂, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における近隣環境と介護費用の関連：JAGES2010-2016コホート研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 木村美也子, 井手一茂, 尾島俊之, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の新型コロナ流行前の社会参加と流行期の感染予防/健康行動：JAGES 縦断研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における道の駅利用と主観的健康感：準実験的デザイン研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林周平, 井手一茂, Chen Yu-Ru, 中込敦士, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 近隣の生鮮食料品店と高齢者の健康・well-being: JAGES2013-2016-2019 outcome-wide 分析
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 西垣美穂, 花里真道, 古賀千絵, 吉田紘明, 松岡洋子, 平石智美, Chen Yu-Ru, 近藤克則
2. 発表標題 水辺訪問と健康行動・うつとの関連：高齢者における横断研究
3. 学会等名 第81回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 森優太, 辻大士, 渡邊良太, 花里真道, Yu-Ru Chen, 近藤克則
2. 発表標題 近隣環境とフレイル発症の関連とその媒介要因の検証：-JAGES縦断研究-
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 辻大士, 岡田栄作, 斉藤雅茂, 金森悟, 宮國康弘, 花里真道, 近藤克則, 尾島俊之
2. 発表標題 地域のスポーツグループ参加割合と全死因・死因別死亡：7年間のJAGESマルチレベル縦断研究
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井手一茂, 阿部紀之, 方恩知, 近藤克則
2. 発表標題 互助コミュニティ型資源回収ステーションの利用と心理指標の変化：半年間の縦断研究
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熊澤大輔, 田村元樹, 井手一茂, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における道の駅利用と外出頻度の関連：道の駅開設前後の縦断研究
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西垣美穂, 松岡洋子, Chen Yu-Ru, 吉田紘明, 平石智美, 近藤克則, 花里真道
2. 発表標題 緑地訪問頻度や活動種類と幸福感・うつとの関連：高齢者における横断研究
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 谷友香子, 花里真道, 藤原武男, 鈴木規道, 近藤克則
2. 発表標題 歩道の多いウォーカブルな地域では認知症リスク減: JAGESコホートデータ
3. 学会等名 第33回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松岡洋子, 木野志保, 長谷田真帆, 尾島俊之, 花里真道, 近藤克則, 近藤尚己
2. 発表標題 高齢者における震災直後の転居と精神的健康の推移：熊本地震前後の中長期追跡調査
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 熊澤大輔, 井手一茂, 河口謙二郎, 近藤克則
2. 発表標題 互助コミュニティ型資源回収ステーション利用で要支援・要介護リスクは低下するか
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 古賀千絵, 斎藤民, 花里真道, 近藤尚己, 斉藤雅茂, 尾島俊之, 近藤克則
2. 発表標題 住宅種別と死亡リスクの関連: JAGES2010-2019年縦断研究
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西田恵, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 地域の子どもの存在と高齢者とのうつとの関連の機序: JAGES2019横断研究
3. 学会等名 第82回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山芽衣子, 辻大士, 河口謙二郎, りんりん, 宮國康弘, 武藤剛, 近藤克則
2. 発表標題 居心地の良い場所を有する高齢者の特徴の探索 JAGES長柄町における横断研究
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 LING LING, 河口謙二郎, 横山芽衣子, 井手一茂, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者における居心地の良い場所の存在および種類と主観的幸福感 : JAGES 2019・2021・2022縦断分析
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 長谷田真帆, 尾島俊之, 近藤克則, 近藤尚己
2. 発表標題 高齢者の居住する住宅と死亡場所との関連 : JAGES縦断研究
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 松本一希, Yu-Ru Chen, 松岡洋子, 森優太, 吉田紘明, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 駅やバス停への近接性と高齢者におけるうつ発症リスクとの関連 : 車利用による比較
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 菖蒲川由郷, 白倉悠企, 尾白有加, 児玉康子, 近藤尚己, 近藤克則
2. 発表標題 高齢者の食料品店へのアクセスと低体重との関連
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井手一茂, Chen Yu-Ru, 小林周平, 中込敦士, 花里真道, 近藤克則
2. 発表標題 柏の葉エリアの高齢者は健康長寿か? : JAGES柏市2013-2022縦断研究
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Chen Yuru, 井手一茂, 小林周平, 花里真道, 中込敦士, 近藤克則
2. 発表標題 柏市柏の葉に居住する高齢者と健康・ウェルビーイング : 2013-2022縦断研究
3. 学会等名 第34回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 近藤克則 (編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 160
3. 書名 ポストコロナ時代の「通いの場」	

1. 著者名 近藤克則	4. 発行年 2022年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 264
3. 書名 健康格差社会 第2版 何が心と健康を蝕むのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	花里 真道  (Hanzato Masamichi)  (00608656)	千葉大学・予防医学センター・准教授    (12501)	
研究分担者	尾島 俊之  (Ojima Toshiyuki)  (50275674)	浜松医科大学・医学部・教授    (13802)	
研究分担者	相田 潤  (Aida Jun)  (80463777)	東京医科歯科大学・大学院医歯学総合研究科・教授    (12602)	
研究分担者	辻 大士  (Tsuji Taishi)  (90741976)	筑波大学・体育系・助教    (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関